

令和5年度 難病患者コミュニケーション支援研修会 開催要領

1 目的

重症神経難病*により意思疎通が困難となった療養者にとってコミュニケーション支援は不可欠である。しかしながら、コミュニケーション支援を専門とするリハビリの支援者の数が少なく、十分な支援体制とは言えない状況にある。

療養者のさまざまなコミュニケーション支援ニーズに対応するためには、支援者がそのニーズを的確に把握し、対応できる技術の向上を図るとともに、支援者が作業療法士等リハビリ専門職の支援を受けやすい体制を確立することが重要である。

このため、個々の支援者のスキルアップを目指し本研修会を開催する。

*重症神経難病…筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、進行性核上性麻痺、パーキンソン病等

2 主催

公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根 しまね難病相談支援センター

3 開催協力機関

島根県浜田保健所、島根県益田保健所

4 対象者

- ・病院、診療所、施設…医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療相談担当者等
- ・訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション…看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等
- ・保健所、市町村…保健師・介護支援専門員等
- ・居宅介護支援事業所…介護支援専門員等

5 日時

令和6年1月28日(日) 9:00～11:30 益田会場(益田合同庁舎5階大会議室)

14:00～16:30 浜田会場(浜田合同庁舎2階大会議室)

6 内容

① 相談会(コミュニケーション支援および支援機器等に関するもの)

- ・予約制(先着順) 30分/人(組) 各会場最大4名(組)まで相談可

相談時間枠) 益田会場 ①9:00～9:30 ②9:35～10:05 ③10:10～10:40 ④10:45～11:15

浜田会場 ①14:00～14:30 ②14:35～15:05 ③15:10～15:40 ④15:45～16:15

※相談はお一人でなくても、同ケースを担当しているチームでの参加も可能です。

- ・講師 島根大学医学部附属病院 主任作業療法士 森脇 繁登 氏

- ・相談例) ALS患者のコミュニケーション支援を行っているが、病状進行に合わせてどのような機器を選定すると良いか分からないので教えてほしい

多系統萎縮症患者で構音障害があり、手指振戦があるため意思伝達装置の操作スイッチが押しづらく、何か良いスイッチや工夫のアイデアがないか

※コミュニケーション支援に関する相談であれば何でも構いませんのでお気軽にご相談ください。

② 展示会（コミュニケーション支援機器等の展示：意思伝達装置、生活支援用具等）

・展示 合同会社おちらと、しまね難病相談支援センター

7 参加費 無料

8 申込〆切 令和6年1月10日（水）

9 申込方法

以下のお申込み方法で、令和6年1月10日（水）までにお申し込みください。①相談会をお申込みされた方は後ほどメールにて確定のご連絡をいたします。②展示会をお申込みされた方は折り返しのご連絡はいたしませんので、当日会場にお越しください。

（1）申込みフォームまたはQRコードにて必要事項を入力

・申込みフォーム <https://forms.gle/YH23JZaKHFRTJL286>

・QRコード



10 その他

現在、コミュニケーションが必要な療養者に関わっておられる支援者の方々に対して、対面でのミニ研修会（講師：島根大学医学部附属病院 作業療法士 森脇繁登氏、開催場所及び日程は要相談、参加人数最低5名以上）を開催することもできます。その際、本Web研修の内容を受講していただくことが条件となります。ご希望等ありましたら、下記お問合せ先までご相談いただきますようお願いいたします。

◆お問い合わせ先◆

公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根

しまね難病相談支援センター 担当：須山

Tel：0853-24-8510

Fax：0853-22-9353

Mail：k_suyama@hsc-shimane.jp

HP：http://www.hsc-shimane.jp/nanbyo-shien/



：https://www.facebook.com/550066102160988